

(12) に定電位保持した電気防食試験を行い、防食性能を評価した。


第 2 図に電着被膜厚と防食電流密度の関係を示す。電着被膜付試験片の防食電流密度は、被膜組成に関係なく、膜厚が 100 μ m より大きくなると急激に低減する。

膜厚が増えるにつれて急激に低減する。これは、電着被膜の食塩水溶液中、


-11 および...の

工法の有効性が実証された。

6. ジャケット式栈橋鋼管ぐいへの適用

博多港アイランドシティ地区では、港湾機能の強化を目的に、コンテナターミナルの整備が進められている（2008年秋に供用開始予定）。この岸壁工事は、ジャケット工法が採用されており、ジャケット式栈橋鋼管ぐいの防食工法として  工法を適用した。工事概要を以下に示す。

工事名称 博多港（アイランドシティ地区）岸壁（-1 階）（耐震）築造外 1 件工事
発注者 国土交通省九州地方整備局博多港湾空港整備事務所

請負者 東洋・佐伯・吉田特定建設工事共同企業体・石川島播磨重工業株式会社（現株式会社  ）

据付け場所 福岡県福岡市東区香椎浜 丁目地先

施工対象 J2ジャケット 約 100m

- () 金井 久, 石田雅己: 産業別に見た防錆技術 -
海洋構造物 - 防錆管理 第 卷第 号 1999
年 月 .1 - 18
- () 赤嶺健一: 船舶バラスセ 善 星准法第